

## 第5回 江府町小中一貫教育推進検討委員会【議事録】

■期 日：令和元年10月 4日（金）

■時 間：19：00～21：00

■場 所：防災・情報センター 1階自主防災室

<会議出席者>

【委員】谷田副委員長、井上委員、神庭委員、河上委員、梅林徹委員、  
川上委員、中田委員、山川委員、梅林明委員、瀬尾委員、竹内委員

【事務局】富田教育長、加藤課長、山本課長補佐

【傍聴者】7名

### 1 開 会

副委員長挨拶

第5回の江府町小中一貫教育推進検討委員会を行います。今日は手島委員長さんの体調が悪く欠席されるということで、私の方で会を進めさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

前回の第4回の検討委員会において義務教育学校に進めていくということで、この会としての決定とさせていただきます。そのことを保育園、小学校、中学校のPTA会長・副会長連名で、各家庭にこれまでの4回の検討委員会の内容なども踏まえながら報告させてもらっているところです。そして、よりよい義務教育学校にしていくために最善を尽くしていくということで報告をさせていただきます。本日は、今後、義務教育学校に向けて、どのようにそれを進めていくのかということについて検討を進めていく大切な会になると思いますので、どうぞよろしくお願いします。

### 2 報 告 <進行：副委員長>

副委員長 議会への報告について事務局から。

事務局 9月の定例議会があり、9月20日に全員協議会があった。検討委員会の中身、結論が出たことを説明した。1回目から4回目の検討委員会の流れも加味しながら説明をし、最終的に4回目の「義務教育学校設置を結論とする」という報告をした。報告の後に議員のみなさんに意見をいただいた。最終的な結論は、この検討委員会の決定を尊重するという意見をいただいている。多数の方からどんどん進めてほしいという意見をいただいているが、ただ、今日の協議の中にも入っている「住民に対する説明が不十分ではないか」という意見が多くあった。今日の協議の中で「説明会の実施について」を議題としている。回数とかやり方が若干変わってくるので協議をしてほしい。

副委員長 この件について質問はあるか。

委 員 なし。

### 3 協 議 <進行：副委員長>

副委員長 説明会の実施について検討が必要ということだが、それについての説明を事務局から。

事務局 レジュメに説明会の実施についてあげている。当初、全員協議会で結論を伝えたことを受けて、できるだけ早い段階で町民の方に説明をさせてもらおうと考えていたが、全員協議会の中でも「丁寧に住民説明」ということがあった。

形としては旧4小学校区で合計4回の説明会を実施してはどうかと考えている。自分の校区でなくても、住民の方が出やすい場所で、出やすいときに出てもらえればと思う。

説明は事務局から行い、質疑応答、あるいは学校教育に対する意見等をいただける場を設けたいと思っている。

内容については小中一貫教育と、現在進めているコミュニティ・スクールを同日にでき

ればと思っているが、相談して決めたいと思っている。

小中一貫教育についてはこの検討委員会で協議した内容をお話しする。

コミュニティ・スクールについては、令和2年4月1日から小・中合同の学校運営協議会を設置して、地域とともにある学校づくりを更に進めていこうと考えている。

これを別々に説明するよりも、一緒に説明をした方がその違いをご理解いただきやすいのではないかと考えている。先日、コミュニティ・スクールの検討委員会でも、こういった形で説明会をさせていただくということで了解をいただいている。できるだけ早いうちにさせていただければと思っている。

併せて、それぞれの校区で会場はどこがよいのかということも相談をさせていただければと思っている。例えば江尾校区は防災・情報センターがよくても、文化祭の関係で2週間程使えないということもある。そういうことも踏まえてどこの場所がよいか、米沢・明倫・俣野はどこが使えるのか、教えていただけたらと思う。

副委員長 今、事務局から話があったが、まず形態として旧4小学校で計4回行うということに関して意見はあるか。

委員 よいと思う。

副委員長 よいのではないかという意見があったが、これに関してはよいか。

委員 よい。

副委員長 先ほどあったがコミュニティ・スクールについても同時に行うということに関してはよいか。

それについては、我々もまだコミュニティ・スクールの話は知らない状態なので、そのことも教えてもらいながら、義務教育学校についても考えていくというふうになると思うので、同時にしてもらう方が考えやすいのかなと思う。これに関してはよいか。

委員 よい。

副委員長 会場と日程だが、日程についてこの頃がよいという提案はあるか。

事務局 日程は、早ければ10月29日から11月1日の4日間で考えている。会場の都合もあるので確定はできないが。

副委員長 旧小学校の校舎を使うのは難しいか。

事務局 体育館なら使えるかもしれない。明倫小は今も使っているので大丈夫。米沢は電気の関係が分からず、結構物も置いてあるようで、説明会にはふさわしくないかもしれない。俣野小は今医療施設になっているが、広い量の部屋があるのでそこでできると思う。

副委員長 まずは会場のことが1点、あとは我々の参加体制のことも考えないといけないと思う。

委員 コミュニティ・スクールの話もするということなので教育委員会主導で実施するというのでよいか。

事務局 よければそうさせてもらいたいと思っている。

委員 我々はどういう形で関わる説明会になるのかなというところも頭に入れておきたい。その辺りはどうか。

事務局 説明は事務局でさせていただいて、質疑応答で事務局が答えられなくなったら助けていただくとか、そういう形になると思う。

- 委員 全員ではないにしろできるだけ多くの人が出た方がよいのか、それとも各会場に分かれて出た方がよいのか。逆に言うと役割をきっちりしてもらった方がよい。必ず1回は出た方がよいのか、各会場で基本的に出るという立場でいるべきなのか、その辺りをはっきり決めていただいた方がよいのかなと思う。
- 副委員長 我々の参加ということについて今意見もあったが、どういう形がよいと思うか。一方的に事務局の方から伝えればいだけなのか、この会の決定事項を広く住民に伝えるという立場でいくと、全員ではなくても出られる委員が出た方がよいのか、ご意見をいただきたい。
- 委員 そもそも4小学校区でするのは会場的に難しいのではないか。例えば明倫小についても駐車場は校庭になると思うが、一本道しかないので非常に危ない。何人来るかわからない中で俣野小とかだと体育館は結構広い。米沢はない状態。そう考えると、こういった場所（防災センター）とか中学校とかの方が安全面でいうとベストなのではないか。  
それと、住民に対する説明が不十分でないかということでも地区を分けていると思うが、私はホームページを見る中で、議事録自体は載っているが、新着にあげていないことがある。情報を住民さんにホームページにあげりましたよと伝えていかないと。そういったところが大事なのではないかと思う。
- 事務局 基本的に新着にあげているが、今回あがらなかった。
- 委員 それは技術的なこともあると思うので、担当なので言っていただければいくらかでも改善はできる。住民さんに伝わらないことがいちばん議員さんからも言われていることだと思う。4日間は負担がたいへんなので、4回しなくても2回くらいでよいと思う。
- 副委員長 今、意見が出たがどうか。
- 事務局 いろいろな意見をこの場で言っていただけたらと思う。ただ事務局としては、今までの説明会で地域の方が少なかったということなので、「どうしたら来ていただけるのか」という考えている。集落総合点検のように各集落に出ていくということが難しいので、校区単位でできたらどうか、その校区の施設でできたら少しでも来ていただけるかなと思って校區別、あるいは校区だったらどこでできるかなという話をしている。でも「なかなかたいへんだから2つの場所で」ということであれば、それはここの意見なのでよいと思うが、そういう趣旨で提案させてもらったということ。  
今まで説明会をしてもなかなか来ていただけなくて、やはりもうちょっと努力しないといけないというようなお話の中で、こういった形にすると地域の方が出やすくなるのか、声掛けというのものもあるかもしれないし、今までも防災無線とか、昼・夜とか休みを挟んでしたが、なかなか出ていただけなくて、その辺のことを反省しながらちょっと工夫をして、校區別でやったらどうかという提案。
- 副委員長 住民に対する説明会が必要だということがあるということ。あと、ホームページとかできる限りの方法でそういうことを周知することも必要だと。そこも認めた上で、住民への説明会をどうしていくのか、回数、会場、そういったところでのご意見をいただければと思う。
- 事務局 確におっしゃるように「会場がない」ということがある。そうなったときに、校區別で2回やって、全部防災・情報センターや中学校ということになったときに、同じ場所でやるのに校區別でやる必要がどれだけあるのか。たくさん人が来られて、ある程度人数調整をしないといけないので校區別でやるという訳ではなくて、そこで開くことで足を運んでもらいやすいのかなということでも校區別でやる。それを校區別で4回、全部江府中学校でやってどれだけ校區別でやる意味があるのかということも思った。

- 副委員長 今の事務局の意見も踏まえながら、ご意見を。
- 事務局 事務局としては委員の方全員に4回全部出ていただくということは考えてはいない。基本的には事務局が説明。あとは補足等を必要があればしていただくということで。どこかの会に参加をしていただき、何回でも出ていただけるようであれば出ていただく。このみなさんがいちばん分かっておられるので、あとはその場でコミュニティ・スクールの話も聞いていただくという程度で、あまりみなさんにご負担のかからないようにと考えている。
- 副委員長 先ほど委員さんがおっしゃったように役割分担とか、誰がどこの会場にということを確認に、必ずしもそこまできっちりしたものではないということよろしいか。
- 事務局 場所を押さえる関係もあるので、みなさんにご案内してご都合のよいときに出ていただけるように調整をさせていただきたいと思う。
- 副委員長 参加が可能な限り出ていただくというスタンスでよいか。
- 事務局 はい。
- 副委員長 ではそういったことで、あと回数ということもあるが、主には事務局の方でされるということで、委員としては参加できる部分で参加するということがいい。たくさんの方の住民の方に足を運んでいただくということが必要だということで、4回ということで提案されているが、ご意見はないか。
- 委員 重複の質問になるが、これは校区で分けながらその校区外の人に来てよいのか。
- 事務局 よいと思う。ご都合があると思うので。
- 委員 4回やってそれぞれの校区で会場を押さえながら、参加できる人が参加できる場所に参加してくださいという考え方で、できるだけ網羅しようという考え方ということか。
- 事務局 そう。
- 委員 校区で会場が取れないときにはどうだろうかというところ。
- 事務局 そう。先ほど委員さんがおっしゃったように、夜なので暗いグラウンドに停めてもらうことが本当に適切なのか、そういったことを踏まえると土日にやった方がいいのではないかと、いろいろなことを含めてご意見をいただけたら。
- 副委員長 どこが現実的に会場として使えるかというところで、もしかしたら校区にこだわるか、現実的に使える会場がどこにあるかということもあるかもしれない。使える会場としては、防災・情報センター、中学校があがってくると思う。小学校でもやれるが、みんなこの周辺になる。それ以外でできるとすればどの辺の会場が考えられるか。安全面も考えて。
- 委員 神奈川地区は難しいと思う。各集会所になってくると駐車場のキャパがないし、入らない。多分みんなが同じじゃないかなというふうを感じる。
- 副委員長 大きい公民館とか集会所とかもないか。
- 委員 ない。江府町自体に40集落に公民館があるので、よその市町村みたいに大きいものがあればよいが、小さいので、それでたくさん来ると難しいのではないかと思う。
- 委員 たくさん来るかどうか。たくさん来ればいいが。

- 委員 ただ車でみなさん来られると思うので、その辺を考えていかない。
- 事務局 明倫は同推協の総会とかは体育館を使っておられないですか、今は。
- 委員 同推協は武庫の公民館で。  
でも結構ぎゅうぎゅうで、公道に停めたりとか。あまりおすすめしない。
- 事務局 俣野は俣野小が大丈夫だと聞いたが。グラウンドが暗くても部屋の電気をたくさんつければ明るくなるかもしれない。話し合いをするスペースは十分ある。
- 副委員長 他にいかがか。
- 委員 今回のこの検討事項と、コミュニティ・スクールの進め方についても説明があるとのこと。コミュニティ・スクールのお話をすることもやはり、地域とともにある学校づくりをこれから考えていくということができるだけ足を運んでいただいて、聞いていただくためにも、やはり旧校区でできたらいいと思う。学校が無理ならば、公民館を借りるとかというような形になっても、その方が丁寧にみなさんに対しての説明会ができるような気がする。
- 副委員長 できれば4校区でという、最初の事務局の思いもあるし、その方がより丁寧かなと思うが、現実問題会場がということを考えてときに、俣野の方はいけるだろうということで、あとは米沢・明倫ということになるが、そこで具体的な場所とかが決められたらやればいいのか。
- 委員 明倫だったら体育館とかでも距離的にはそんなに。
- 委員 体育館はできるが、一本道なので、結局車が。
- 委員 体育館というのは町の体育館。あそこも地区的には洲河崎。
- 委員 多分明倫地区の人から見たら、「それだったら江尾の方に参加する」というか、明倫小というのが多分考えの中にあると思うので。町の体育館だと多分足が遠くのではないかなと思う。
- 委員 それを言ってしまうと俣野も俣野小だったら、本当に俣野全地区だったら、古屋敷の方からしたらすごく遠く感じる。
- 委員 であれば、町のところでやった方がいいのではないかなと。
- 委員 足を運んでくれる人にはいいと思うが、近くだったら行ってみようかなと思ってくださる方もあるのかもしれない。防災センターか中学校にしても大きな会は最後においておいて、来られなかった人、どこでもいいし、何回行ってもいいが、可能であればお借りできたらと思う。
- 事務局 昼間だったらどうか、旧明倫小の体育館は。
- 委員 昼間だったらまだ安全性は確保できるのではないかな。
- 事務局 どうして先ほど「〇日」みたいなお話をさせていただいたかということ、保護者宛に9月20日付で出されている。「近々説明会をします」と最後に一文入れていらっしゃると思うが、その「近々」の説明会がずいぶん遅くなってもいいのかなという思いが事務局にはあって、できるだけ早くお伝えしないといけないのではないかなということなのでこの日に設定しようとしている。それがもう少し遅くなってもいいじゃないかということだと、休みの日

の昼間ということも考えられるかなということも思っている。そうすると旧明倫小が使えるとか、そういうことも選択肢の中に入ってくる。20日に文書を出して、そこまで待っていただいてよいのかというところを考えていただけたらと思う。

副委員長 「近々」の解釈とだが、この期間中だと土日は挟まないか。

事務局 平日の夜で考えている。土日を挟むと町の行事とバッティングするところもあるので、その行事の内容と合わせて考えないといけない。

委員 保護者については、日時の案内が出ていれば、その「近々」というのは気にしなくていいのではないかと。日程調整の上で、きちんと保護者に周知できていれば問題はないのかなと思う。

事務局 そういうふうに言うだけで、もうちょっと候補日が増えてくる。町文化祭の後の土日なども考えられる。

副委員長 いろんなことを考えていただいて、昼間ということも考えていただいて、日程と会場を確定してもらえれば。決まり次第それを保護者に伝えればいいのではないかとということでもよろしいか。

委員 はい。

副委員長 場所の選定や日程に関しては事務局の方でということでもよろしいか。

委員 はい。

事務局 ちなみにどこか米沢校区でどこかないか。

委員 明倫より難しいと思う。

事務局 米沢を見に行ったが、広い所がなく、しいて言えば体育館。体育館も蛍光灯くらいしかない。もし米沢小でやるとなると、昼間じゃないと多分資料が見えない。同推協の会はこっちに出てきてしているようだが、どこかよい所があれば教えていただけたらと思う。

委員 奥大山。

副委員長 だいぶ上がらないといけない。

委員 バスもあるし、日中であれば。機会をある程度設けておけばいいのではないかなと思う。複数回で。

副委員長 スタンスとして各小学校区でするといって、住民の方も納得してくれる感じもする。それぞれのところでやったというのが、参加されなかったとしてもきちんと丁寧に説明しているということも理解してもらえるかなという気もする。

事務局 今お話しいただいたようなことを参考に事務局で案を作る。次の会でお示しすると遅くなってしまうので、文書等で連絡をさせていただくということにさせていただきます。特に米沢は委員さんの方が詳しいかなと思うので、相談をしながら日程調整をさせていただきたい。

副委員長 では、説明会についてはそのようにさせていただきたいと思う。また連絡を待ちたいと思う。よろしく願います。

②として、今後予想される検討内容・準備工程というふうになっているが、資料1について事務局から説明を。

事務局 カラーでお配りしている。義務教育学校設置に向けて想定される検討内容・準備工程ということで表題を付けているが、鹿野学園がどういうことをしてこられたかを参考にこれを作ってみた。

義務教育学校になるにあたって、先日もお示しましたが、保小中一貫教育ビジョンがいちばん最初に必要かなと考えている。これを基にして、そのあとのことがいろいろ決まっていっていると思うので、まず第一にこれを決めないといけない。

その次、「学校名」を早い段階で決めないと、その学校名に基づく校歌とか、校章、その学校名に込められた意味に合わせたものということで作っていくことになるので、学校名。それを基にして町の学校設置条例を変えないといけないということがあるので、学校名をいちばんに。これをどのように決めていくのかということをお話で相談をさせていただければと考えている。

左側に「校訓」というのが書いてあるが、現在小学校は「たくましい心と体」、中学校は「しなやかな心と体」という校訓がある。これを小中一つの学校にしたときに、どのようにしていくのかということも、ビジョンに合わせて考えていく必要があると考えている。今申し上げたところが、この検討委員会で考えていった方がよいのかなと思っている。決め方、作り方を含めてこの検討委員会で考えていただければ。

右側に「教育課程」の欄を設けている。教育課程についていちばん大きなところはみなさんがいちばん気になると思うところだと思うが「ブロック制」。ここには6・3制、5・4制と書いてある。これは話題にも上がったが、その他にも4・3・2制という枠組みで子ども達を育てていくといういろいろなやり方がある。どういった形の学校にするのか、子ども達の発達段階に応じてどのようにしていくのかということも、やはりここで責任を持って考えていく必要があるのかなと思っているので、「委員会」と書いてあるオレンジ色の枠で書いてある。

左側の方からいくと、赤枠にしてある、例えば校訓の掲示物。体育館や校長室にあたりするもの。あるいは学校の名前で、江府小学校であれば児童玄関の上に江府小学校と書いてある。そういったことが全部変わってくる可能性がある。校歌（の掲示物）についても、事務的な手続きになると思うが、やっていく。こちらについては学校と教育委員会が現場の実態に合わせて考えさせていただければと思う。

併せて「教育課程」は、こちらの小中一貫の下のカリキュラム。教科・領域に関するもの、その下に書いてある特設の教科をどのようにしていくのかというあたり。子ども達の実態、学校のいろんな行事とか、発達段階に合わせていろんな節目を活かしていく活動をどのように取り入れていくのか、あるいはそれに合わせた校内の先生方の研究体制であるとか、保育園との連携。今回のいちばんの目的である「できるだけ多くの多様な人との関わり」ということで、おそらくは9年間の縦割り班活動になると思うが、そういった形について。

それと下にあげてある「修学旅行」は、今小学6年生と中学3年生で行っている。これは子ども達の学習、学びに合わせて、例えば6年生であれば平和学習であるとか、目的を持ってやっているのだから大きく変わることはないのかなと思うが、その辺りについても検討が必要になってくるかと思う。そこは、学校の先生と教育委員会が主になって検討させていただければと思っている。もちろん、ここに保護者や地域の方の声を聞いたり、コミュニティ・スクールが始まるので、そういった声を取り入れたりするのは十分可能。

右側の方になるが、こちらは説明会のアンケートの中にもあった「入学式」。これが1つの学校になって校舎が替わる場合に「入学舎式」、「入校舎式」になるかもしれないが、そういった形で校舎が移動するときに次のステップに上がるという節目の式を設けたり、「卒業式」も同じで、基本的には義務教育学校9年生で卒業だが、小学校校舎から中学校校舎に行くときに、鹿野学園は「巣立ち式」という式をしておられる。そういったことを設けていくこと。それから主には学校になるが、参観日について、2つの校舎で同日に参観日をして移動をしていただくのか、校舎ごとに分けるのかといったようなこと。基本的に私は1日だと考えている。

あと部活動の在り方についても今後検討ということで話が上がっているのだから、こういったことを保護者と学校とで意見を持ちよりながら検討していただくということになるかということで水色の枠にしている。

その手続きとしては条例改正の手続きとか、例えば校名、校歌、校章そういったことを公募でやるとなった場合にはその募集の手続き、集計をして決定をして、出していただいた方への表彰もしておられたので、そういったことも必要になってくるかと思う。

合わせていろいろなことにお金がかかってくる、掲示物を作るにしてもタダではできないので、その辺りの予算化、間に合うように発注等、そういった手続きは事務局の方でさせていただければと思っている。

「その他」に上がってくることとして、例えば鹿野学園では制服を変えられた。変えるのか変えないのかといったようなこととか、江府小は名札を付けていないが江府中は名札を付けている、そのあたりをどうするのか。変えるのか今まで通りなのか。あるいはカバンのこと、帽子のこと、体操服のこと、9年間同じものにするのか、今は小中違っているがそのまま使っていくのか。水着は今同じものが使えるようになっているが、どうするのか。小学校は上靴は自由だが、中学校では体育館用のシューズがある。

細かいことだが、その辺りも相談していく必要がある。例えば小学校から中学校になって体操服が変われば買わなければいけないが、変わらなければそのままいけるということもある。お兄ちゃんお姉ちゃんのお下がりがあるまま使えるということもあるので、そういうことも含めて検討を進めていく必要があるのかなと思っている。

小学校では卒業文集、中学校では卒業アルバムを作っているが、卒業が1回になると、例えば巣立ち式のときに進級文集のようなものを作るのかどうなのかとか、前にも話があった放課後練習を、例えば5・4制になったときにどういう形でするのかとかということももしかしたら出てくるのかもしれない。そのあたりは学校を中心に考えていただくことかなと思っている。

最後、登下校について。登下校については基本的に今の形だが、校舎間の移動がもしかすると出てくるかもしれない。そのあたりをどのようにしていくのか、どんなことが想定されて、どんな解決策があるのかということのを学校と教育委員会で検討していかないといけないと思っている。

さきほど説明会の話をしていただいたが、情報提供として、どのように進んでいるのかというような説明会や、鹿野学園は『かわら版』という形で推進委員会が発行し、住民へ情報を提供していた。

あと（義務教育学校へ）変わっていくとき、児童生徒へどのように知らせていくのかということも考えていかないといけない。

思いつくところ、それから鹿野学園を参考にさせていただいて、今お示した。もちろんこの中で「これは必要ない」ということもあるかもしれないし、「もっとこういうこと」を考えていかないといけないということもあるかもしれないので、その辺りを出していただいたり、ここに挙げている今の枠組みについて「この部分については学校と教育委員会で考えてよ」とか、あるいは「この部分については保護者も参加させてよ」ということが、あれば教えていただいたりして、この形を変更していきたいと思っている。ここでのみなさんのお考え、ご意見をいただけたらと思う。

副委員長 今、鹿野学園の例をベースに、あと必要だと思われるものを考えられて今後の工程について示してもらっている。まず質問や確認しておいた方がいいことがないかということを出した後で、この中身についてもご検討いただきたいと思う。ここに書かれたもので確認した方がいいと思われることはないか。

委員 これはスケジュール感でいうと、どれくらいの方針決定して計画を立てて、どれくらいで施設・設備のことをするのか、ざっくりとしたイメージはどのくらいで考えているか。

事務局 2年間あれば比較的ゆったりとしたスケジュールでいけるのではないかと考えている。当初は1年間でいくということも考えていたので。

はっきりとどれがどのくらいかかるというのはないが、例えば公募をかけるとすれば、少なくとも1か月程度は募集期間があって、その前後の期間が必要になってくると思うので、2か月ぐらいとか。

委員 いつ始まるかをターゲットにしたときに、とんとんと多分決まっていって、これにはこ

れくらいの時間がかかるとかというのをある程度ざっくり出しておいた方が。

これからの話でもあるだろうが、決めないといけないことを決めるにあたって、結局その間はこの検討委員会をずっと開催するということになると思う。そもその規約で検討委員会としては1年間とあるのが、またぐということが今の感じだとあるのかなと思ったりする。その辺があるのか。

あと個人的には抜けている部分があるのか、必要なだろうなというのはあるが、細かくて分からない部分がある。

最後に、情報提供を検討委員会だけでやるというのはちょっと。イメージからすると教育委員会もそうだし、学校もそうだし、一緒に情報提供はやっていただかないと。情報提供が検討委員会任せになってしまうと、分からない中で情報提供するのはどうか。この中でいうと、情報提供を検討委員会だけがやるというのはちょっと違和感がある。

副委員長     その他ないか。

委     員     義務教育学校は検討委員会で進めていくと決まったが、今までの議事録を見た中で、「早くても令和4年度」という話が出たときに、校長先生の人事、退職のことも考えてということがあったと思う。私もメリットはすごく分かったので、早くても令和4年度ということが人事に絡むことは分かりつつも、子ども達のことを考えるのであれば令和3年とか、もっと早い段階で享受してあげるべきなのではないかと思った。

議事録の中でも、子ども達が享受できるということが大事だということもあったので、それを大人の都合でそうするというのは子どものためになっていないではないかという矛盾を感じていた。

そう考えたときに、2年という時間を見ると、早くても令和4年度からとなると、逆に言うと時間かけすぎなのではないかと感じている。よいものであればもっと早く子ども達のためにしてあげた方がいいと思うし、公募するのであればまとめて公募すればいいことだと思う。それが子ども達のためなのではないかなと感じたところ。

事 務 局     おっしゃる通り、早ければ早い方が。中学校は、来年度は40人台、再来年度は30人台になるということを受けてのスタート地点ではあったので。

委     員     令和3年度も、先生の研修もそこである程度カバーはできる可能性があるということ。義務教育学校であれば。

事 務 局     義務教育学校ではなくても行き来はできなくもない。32年度で考えていたのが、これは急すぎて無理だったが、今の5・6年生が合わせて17名と非常に人数が少ないということで、「リーダーシップを経験せずに行ってしまう学年がある」というお話があったと思うが、その2つの学年がまとまってリーダーシップを経験する。とは言っても5年と6年という違いはあるが、経験ができる年度は今年度だった。それで次はと考えたときに、5・4制になった場合、人数が少ない学年で令和3年の5・6年生が9名と18名。そこでのリーダーシップを経験しながら5・4制でも対応ができるというところはある。

委     員     学習指導要領のことを考えても、来年度から小学校が完全実施、次の年が中学校が完全実施で、翌年からということ。そのスケジュールから考えても、現場としてはかなり激動かなという気はする。やはり私の意見としては令和3年度も魅力だが、バタバタ感がかなりあるんだろうなと考えると、令和4年を見据えていく方がよいのではないかと思う。小学校の現場は来年の4月からやることになっているけどまだはっきりしないぞということがあったりして、こういうものを作らないといけないらしいけどとか、そんな状態。

委     員     なかなかその辺の状況が分からなかったので発言したが、先日委員さんが言われたように、パーフェクトなものを作っていくということを考えると、令和4年というのもありなのかなと今の話を聞いて思った。

事 務 局     教員の都合を言うともあまりよろしくないというか、やはりよいものをということを確認

ていただいて、事務局としてもできるだけ頑張っけてやっていきたいという思いはある。前回の会でもやるからには初年度から完璧なものをという話の中で、都合で申し訳ないが、教育の中身が大きく変わり、来々が小学で、次の年が中学校。中学校が変わる年が新しい学校になった年となったとき、教師は頑張らないといけないうが、いろいろがんばることがあつて、「もうちょっと全力投球して欲しい」というところがちょっと横に置かれやしないかという危惧がある。それは実施となった年にやる方が完璧というかパーフェクトに進められるのではないかなと。準備期間もしっかり取れているので。

副委員長 今ここにあげられているもの以外にも、話し合つていけばもっともつと細かいものが出てくると思う。余裕をみて、令和4年度を目指してという方針でいくということによろしいか。

委員 現場の声も分かつたので。

副委員長 資料1の方に戻るが、ここで事務局からはそれぞれ色分けをしていただいて、それぞれの範疇というか、そこを示してもらつてはいるが、今説明を聞かれたところで何かご意見とかご質問とかはないか。

委員 このオレンジ色は検討委員会ということになるが、赤の部分が学校と教育委員会というのは、何かそういったまたそれなりの組織を作られる考えなのか。

あと、青の保護者と学校、これはPTAを母体としたものでやっていくのか。今後小学校と中学校のPTA活動も共にやっていく必要があるのではないかなというようにもこの前町P連の中で話があつたので、それがこういったことの話をしていく主体となっていくのか。それともこういったことを検討していく組織みたいなものをまた考えていくのか。その辺は何か想定されているものがあるか。

事務局 今のところは具体的には考えていないが、それも含めてご意見をいただければ。委員会は、この検討委員会。それ以外については、例えば学校といつても全教職員なのか管理職の先生に出ていただくのかということも、まだはっきりとしたものはない。そういったことも含めて、意見をいただくのはどういった方がいいのかなということでも色分けをしている段階だというふうに捉えていただきたい。

事務局 保護者と学校で決められる中身については、保護者と学校の方で相談されてもいいのではないかな。例えば町P連の中で話し合いをしていきましょうというような既存の組織を使ってされるということもあるだろうし、あるいはそれぞれの単Pで話をしてから意見をもらいましょうということもあるかもしれない。それはそれぞれの組織の中でご検討いただいてもいいのかなと思つている。

学校と教育委員会についても、ここの部分は管理職と教育委員会で話をしましょう、ここの部分は先生方も一緒に混ざつてやりましょうとか、あるいはここの部分は先生方で話し合つて学校の中で案を作つてもらえませんかなど、いろいろなパターンでやっていけばいいのかなと個人的には思つている。

副委員長 どのようにそれぞれのところで進めていくかということは検討されていくということであるとは思ふ。

事務局 ただ検討される中で、そうなつていくとなかなか意見がまとまらないとか、やりにくいというお話の中で、「やはりこの中身は検討委員会で話をしてもらつた方がいい」ということがあれば出していただけたら。

副委員長 先ほど事務局の説明を受けたが、まずはオレンジ色の部分を検討委員会で話し合つてほしいということを出している。他の色分けしてあるところも、この形でいいのか、検討していく主体はどこでやればいいのかといった辺り、ご意見があれば。

- 委員 地域のみなさんに愛される学校になってほしいと思うので、できる限り公募できるものは公募の方がいい。その中で決めていくのはこの中かもしれないが、校歌に関しては技術的なこともあるので、専門的な方に頼むのがよいかもしれない。
- 副委員長 公募を積極的にしてほしいということですね。
- 委員 この検討委員会自体は1年。ということになると、このオレンジ色の分はこの1年で決めるということなのか。そうじゃなくてこの検討委員会がさらに1年の任期だけど、長くなるということなのか。
- 事務局 再任を妨げないという規則なので。ただPTAの方は所属が変わったり、役が変わったりという中で、もしかしたら変更ということもあるかもしれないが、基本的には同じ方という訳ではなくて、再任を妨げないので、任期が近くなったら相談させていただくということになろうかと思う。
- 委員 私の認識としては1年でこの検討委員会は終わって、あとは別の形の何かがあるかなと思っていた。そうすると、例えば令和4年度に向けて何か縦軸、タイムスケジュールじゃないが、何か時間座標があると、認識しやすいのかなと思う。
- 副委員長 今後の検討委員会の在り方について意見をいただいた。任期はいつからいつまでか。
- 事務局 今年度の4月1日から3月31日。
- 副委員長 その頃になったらまた検討委員会の方に。
- 委員 一貫教育はずっとそれで通すということか。
- 副委員長 メンバーが多少変わることはあるかもしれない。小中一貫を推進するという検討委員会は来年度も継続されて、検討をしていくということで提案をいただいているが、それ以外に関してはまだ、今の委員が全員このまま来年度もということでもないということか。
- 委員 はい。
- 副委員長 この検討の形についてはスケジュール感は出ていないにしても、令和4年度を目指してこれらをずっと進めていって、よいものを作っていくことになるが、形としてはこれでよろしいか。
- 委員 よい。
- 副委員長 では次回の検討委員会で、こういったことについてはどこが検討するのかということが当然出てくると思うので、それはその都度検討していく必要があると思うが、大きい動きとしてはここで示されているような動き方ですということを確認してよろしいか。
- 委員 はい。
- 副委員長 ではそれをお願いする。レジュメではこれを検討するということになっていて、その他の項目があるが、その他については事務局から何かあるか。
- 事務局 特に準備はしていないが、先ほどあったように保小中一貫教育のビジョンについて、まずこれが決まらなとなかなか次に進めないところがあるかと思う。  
先ほど話があった公募をかけるにしても、こういったビジョンを持って、それにあった名前をご応募くださいという形がいちばんいいのではないかと思う。

そのビジョンについてだが、それを今ということになるのか、また改めてということになるのか。一旦ビジョンの案はお示ししているが、それに、付け加えであったりとかもつとこういうことをというご意見等をいただくのが次回でもいいのかなと思っている。特にそれ以外で今日はこの協議をということはない。

副委員長 今後は最優先として取り組むのがビジョンについて検討するということになる。ここでオレンジ色のことに関しては、少なくとも今年度の任期中でどこまで話せるかというところがまだあるが、それぞれ検討を進めていかなければならないということは確か。それぞれ委員さん方でどういったものにした方がいいのかということに関しては、カチッとしたものでなくていいので、こんなのがいいのではないかとすることは、ご意見をそれぞれ持っておいていただき、それを出していただく中で検討を進めていきたい。1人ずつ聞くということもあるかもしれないので、ご準備いただければと思う。

時間としては9時までの予定なので、少し早くはなるが、これで終わってもいいが、ビジョンについて今何かご意見とか、これまでに示されているものがあるが、これについてご意見などがあれば出していただきたい。

委員 先ほど説明があったように、ビジョンを決める前にまず校名と言われなかったか。

事務局 ビジョンがあって校名と思っている。

委員 分かりました。

副委員長 以前示されたもので、なんとなくいい感じだなと自分としては思っているが、みなさんもそれで進んでいるからこそ義務教育学校の方に考えを持ってもらったのではないかなと思うので、前回出たものをベースに考えていけばいいのかなとは思っている。私の私見だが、みなさんどうか。

委員 しっかりしたものを作られているので、なかなか出にくいのではないかと。次に進んでもいいのではないかと。

副委員長 そういったことも含めて、再度以前出されたものも見ていただきながら、ここは修正した方がいいのではないかと、微調整してみてもいいのではないかとすることも踏まえて次回に検討するというところでよろしいか。

委員 はい。

副委員長 では、次回からビジョンを中心に検討をしていきたいと思う。

●第6回委員会：

- ①日時：令和元年11月12日（火） 午後7時30分～午後9時00分
- ②場所：江府町防災・情報センター 1階 自主防災室